

思整堀

思整堀の義天文年白鬚水にて河の模様大いに変わり候節私
先祖にて養水の見立申し上げ弘治年中普請相始まり其
後只今の通り成就仕り候は天正年中と申し伝え候処右記
録は五年以前隣火にて出火の砌り何れに粉れ候や数々相尋ね
候得共相見え申さず候之に依つて心覚えを以て申し上げ候に付年号の
此の義は確と申し上げ兼ね候間猶御筋御吟味成し下されたく存じ奉り候
以上

西
四月
思整堀之助
小森愛之助

恐れながら御請

一思整堀の義天文年白鬚水にて河の模様大いに変わり候節私

先祖にて養水の見立申し上げ弘治年中普請相始まり其

後只今の通り成就仕り候は天正年中と申し伝え候処右記

録は五年以前隣火にて出火の砌り何れに粉れ候や数々相尋ね

候得共相見え申さず候之に依つて心覚えを以て申し上げ候に付年号の

此の義は確と申し上げ兼ね候間猶御筋御吟味成し下されたく存じ奉り候

以上

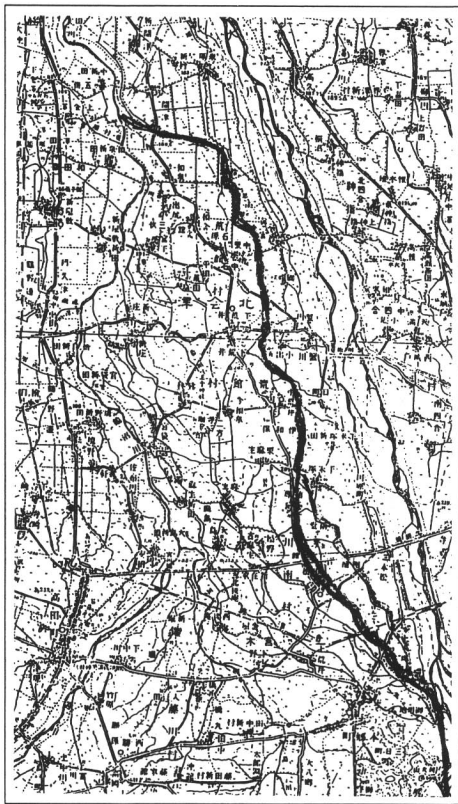
西
四月

思整堀之助
小森愛之助

印

この堰は岩崎堰であるが、別名思整堀ともいい、大川の水を岩崎の麓から下小松（小松）を通り、中荒井・川崎・中里・真渡を経て上海津に至り鶴沼川に注ぐ、長さ七千九百七拾七間で、橋瓜組・中荒井組・坂下組・牛沢組の四組二十八か村の田圃四百七十九町歩余に注ぐ非常に長大な堰である。下図の大線は思整堀を示す。

その後、昭和三十八年以來の圃場整備事業により、現在の堰は幹線水路が六本となり、そこから細かく分水される近代的なしくみに変わっている。



思整堀